

2006年7月11日

高円寺の環境を守る会  
警大跡地をまるごと緑と防災の  
広場でのこす会  
警大跡地に防災公園をつくる会  
高円寺北有志  
高円寺南5丁目有志

### 警察大学校等跡地利用での「覚書き」の履行を求めることなどについて

私たちは、警察大学校等跡地利用計画を進める最近の中野区の対応に強い不安をもちています。

第1に、私たちの要請で実現した6月22日の説明会では、住民が知りたい点について中野区は明確な説明ができず、今後についても「説明できる段階になったら説明する。何回もはできない」など、住民との合意を図ろうとする誠意が見られないからです。

第2に、住民の関心が強い防災公園は、「避難場所として狭い」「命がかかっていることは充分承知している」などということは認めるものの、避難に必要な場所の確保は「頭をひねっている段階」と回答。ビルによる火炎旋風、避難場所にF字道路を含めるかどうかなど、これまで問題にされ続けてきた基本的なことさえも説明できなかったからです。

しかも、跡地計画の中野・杉並区の2005年8月の「警察大学校等移転跡地の土地利用に関する覚書き」（以下、「覚書き」）第1条は「『防災公園と周辺のオープンスペース等により』は、面積の合算だと理解している」との立場をしめし、3～4haの緑地空間としての一体性を確保する姿勢がありません。さらに、これまでの住民説明会で、防災公園の前方には中学校の運動場を配置し、防災緑地を一体的に確保するとしてきたにもかかわらず、いつのまにか警察庁舎が建ちはだかる計画に変更されている点についての説明はありませんでした。

第3に、跡地利用について、どう高円寺側の環境に配慮するのか、オープンスペースの確保と高度利用との関係など、「考え方もしっかりしたものができていない」「計画が決まっていないので、説明できない」「都市計画で誘導する」を繰り返すばかりでした。その都市計画の手法でも「民間開発主導の再開発促進区でやろうとしているが、もともとの地区計画を併用した用途変更でやろうとした方法ではないのか」との質問にも答えられませんでした。

結局、中野区は「説明する内容がない」のではなく、この3年間、住民に説明できるような責任ある検討をしてくれなかっただけです。すでに中野区は、跡地の開発に向けて民間の開発事業者との勉強会を始めています。住民との合意を脇においたこのような進め方を、絶対に認めるわけにはいきません。そもそも、「覚書き」にもあるように、跡地の土地利用については、両区で連携を図ること。地区計画の策定には、周辺の住環境へ十分な配慮がなされるよう努めることなどが、杉並・中野の両区で合意されています。

私たち住民には「避難場所は安全だろうか」「住まいに日は当たるのだろうか」「自動車による大気汚染、騒音は大丈夫か」「緑はどうなってしまうのだろうか」などの不安が高まっていますが、このような時こそ、杉並区が私たち住民の立場にたって、中野区へ強い働きかけをして、住民の生命と生活を守るために力を発揮するのが、あるべき行政の姿ではないでしょうか。

そこで本日、私たちは、杉並区にたいしても以下の点について強く要望するものです。

．．．． 記 ．．．．

1. まとまった防災緑地の確保に重大な影響を与える、公園前への警察庁舎配置が処分計画にでていますが、杉並区として引き続き「覚書き」履行について、責任もって厳しく対応すること。
2. 中野区側の民間による大規模開発計画を中心とした現行計画を、防災緑地を中心としたものに抜本的に見直すことについて、杉並区としても検討すること。
3. 跡地の開発に向けて中野区が勉強会を行っている民間事業者、警大跡地の開発者などと住民との直接の話し合いの場を継続的にもてるよう、杉並区として努力すること。
4. 杉並区として、以下の点について、中野区に求めること。
  - ①跡地と杉並区側との間への緩衝緑地帯などの設置、杉並区側の用途地域とのバランス、隣接住宅地の従前の住環境確保について、計画で厳しく規制し、誘導すること。及び、災害時の避難経路の確保及び安全性の確保など、責任ある検討をすること。
  - ②今後進めようとする地区計画原案の公表手続きは、事前に杉並区住民との合意にとことん努力した上でおこなうこと。
  - ③そのためにも、杉並区住民との意見交換を行う勉強会、住民説明会等の要望に誠実に応えること。
  - ④跡地の開発に向けて勉強会を行っている民間の事業者、警大跡地の開発者などと杉並区住民との直接の話し合いの場を継続的にもてるようにすること。
  - ⑤民間による大規模開発を中心とした現行計画を、防災緑地を中心としたものに抜本的に見直すこと。

以上